

令和 7 年度 自己評価報告書
(改善の結果及び次年度に向けた改善方策について)

世田谷区立三宿中学校

【学校関係者評価アンケートについて】

アンケートの回答状況

- ・生徒 全校生徒数 356 名 回答数 285 名 80.0% (昨年度 89.1%)
- ・保護者 対象保護数 344 名 回答数 179 名 52.0% (同 39.5%)
- ・地域 回答依頼数 45 名 回答数 32 名 71.1% (同 43.1%)

ここ数年、Web での回答法を採用したため、回答率が全体として低下したが、学校便りやすぐーるでの周知、学芸発表会の際にご回答いただくなどの取組により、本年度は保護者と地域の回答率がかなり上がった。今後も引き続き、回答率が上がるよう取り組んでいく。

重点目標の成果と課題、改善策

1 教員の指導力の向上

- ・「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」「先生は、映像やタブレットなどの I C T を利用し、分かりやすい授業をしている。」「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の肯定的評価は各々、94%、98%、85%、91%といずれも非常に高くなっており、学年による差もほとんどない状況である。
- ・ 唯一の共通設問項目である「学ぶことが楽しい」については、肯定的評価が 69%、否定的評価が 25%であり、昨年度よりは若干評価が高くなっている。
- ・ 生徒たちの理解を深め、活用・探求する授業を構築するために、考えさせ他者の意見を聞き、発表しあうことで学びが深まっていく。先生方は授業をそのように進めている。肯定的な意見が高いのは、生徒たちも理解していると捉える。
- ・ 今年度の学校経営計画の中に「自分の教科を好きにさせる工夫」を入れた。先生方は自分の教科に誇りをもって指導している。自己申告の面接時には、自分の教科を好きにさせる工夫について確認するようにして、常に意識してもらうようにし、その結果 90%を超える高い評価につながった。

【改善策】

- ・ 教員が、自分の教科を好きにさせる意識をもつことで、さらに生徒たちが授業内容に対する理解を深め、学力の向上にもつながっていく。また、校内研修や OJT などをさらに充実させ、指導力の向上に努めていく。

2 キャリア・未来デザイン教育の推進と実現

- ・「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」に対する肯定的評価は 78%、「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」は 84%、「地域の方や先

輩方から聞いた内容は、自分の将来のために役立っている。」は 74%、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を、提供している。」は 87%であった。昨年度よりも評価は上がっている。

- ・ 1 学年では身近な仕事調べについて、端末を活用し A 4 一枚にまとめ壁新聞を作成し、仲間の調べた仕事について見ることで多様な仕事について知識を深めることができた。また、夜間学級の生徒とも交流を深めるために、お互いの学習していることを発表し合う活動を行った。また、3 年生から進路選択に関する話をしてもらい、今後の進路について、自分事として考えることができた。
- ・ 2 学年では大きな取り組みとして、3 日間の職場体験がありさらに充実したものにするために地域人材の方に協力していただき、職業人の講話を設定し「弁護士」「ボクシングジム経営者」の方と職場体験では経験できない方たちに話していただいた。また、高校の先生方の体験授業を実施し、様々な特色のある学校の授業を受けることができ、高等学校への理解をさらに深めることができた。
- ・ 3 学年では、高校 1 年生の卒業生から中 3 の夏休みの過ごし方やどのような考えで今の高校を選んだのか、また、中学 3 年生の夏休みの勉強の仕方などの話を聞く機会を設けた。受験に向けて、どのように取り組んでいけば良いかなど具体的に考えることにつながった。

【改善策】

- ・ キャリア・パスポートをさらに有効活用し、生徒自身が自己のキャリア形成について考え、自己肯定感を高められるようにしていく。
- ・ 各学年間のキャリア教育に関する取組をしっかりと繋がりのあるものとなるよう、系統的な取組を実施検討していく。
- ・ 卒業生や地域の人材を活用し、キャリア教育の充実を図る。

3 個を生かした教育の推進

- ・ 生徒の「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」、「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」に対する肯定的評価は、各々 91%、89%、81%であった。
- ・ 保護者については、「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」に対しては、肯定的評価 68%「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」に対しては、肯定的評価 83%で、昨年度に比べて評価は大変高くなっている。
- ・ 本校では学校生活について指導する際、なぜこのような指導をされているのか、考えさせる指導を行っている。頭ごなしに「ダメだ」ではなく、その行為はどうして注意されているのか考えさせる指導である。その結果が 80%を超える高い肯定的な評価につながっていると考えられる。今後も指導を継続していく。
- ・ 保護者の生活指導についての回答は、令和 7 年度は肯定的評価が 68%で前年より 11%上がり、否定的評価は 13%と 5%少なくなっている。保護者にも本校の実践が浸透してきていると感じている。

【改善策】

- ・ 引き続き生活指導において、「なぜこのような指導をされているのか」などと考えさせる指導を継続し、生徒がしっかりと自分事として捉え考えることができる指導を行っていく。

- ・ 学校のきまりなどについても、生徒が主体となって考えられるよう生徒会を中心に、意見を表明する大切さとみんなで協力して取り組んでいくことの大切さを指導していく。
- ・ 不登校別室（レインボールーム）の機能を充実させ、不登校や不登校傾向の生徒にとって、少しでも活用しやすく、また教室復帰に少しでも近づくように運営していく。

4 生徒の主体性の育成

- ・ この目標に関する質問項目では、肯定的評価が 87%～96%と非常に高かった。また、学校生活に関する質問項目でも、肯定的評価が 83～90%と高かった。保護者アンケートにおいても、肯定的評価が 85～89%と非常に高かった。
- ・ 生徒たちの肯定的評価が高いのも、普段の学校生活や学校行事を通して自分たちが頑張ったことを実感できており、また、仲間の大切さや仲間と共に成長していることが実感できているからだ考える。

【改善策】

- ・ 体育大会や学芸発表会などの行事において、より生徒が主体的に取り組むようにし達成感や自己肯定感を高められるようにしていく。これからも生徒たちの意欲を高めて成長を促す指導を継続して行っていく。
- ・ 生徒が主体となる授業実践を増やすとともに、探究的な学びを一層推進し、自力解決と協働解決の機会を取り入れ主体的な学びの充実を図る。

5 学校からの情報発信による保護者・地域との連携

- ・ 保護者アンケートや地域アンケートによる、この目標に関する質問項目では、肯定的評価が 74%～83%と高かった。
- ・ しかし、「本校は、保護者に指導の重点を伝えている。」に対しては、肯定的評価 50%、否定的評価 23%、「私は、今年度の指導の重点を理解している。」に対しては肯定的評価 38%、否定的評価 42%であった。
- ・ 学校と保護者・地域の連携のためには、教育の目標や「指導の重点」についての共通理解が欠かせない。HP により分かりやすく掲載したり、「学校だより」などで折に触れて伝えたりする必要がある。
- ・ 宿泊行事などの際も、生徒たちの様子を保護者に伝わるよう、学校HPに掲載するようにしている。校内の生活の様子もこまめにUPしていることが高い肯定的評価につながっていると考えられる。
- ・ 指導の重点については、年度当初の保護者会においてプリントを配布し説明しているが、アンケートの時期までには半年ほど経過しており、忘れてしまう保護者もいるのではないかと考えられる。保護者会などにおいて、学校アンケートの中に出てくることを強調して話していくようにしていきたい。

【改善策】

- ・ 学校便りの充実と、ホームページでの情報発信により、学校での様子を伝えていく。
- ・ キャリア教育に関する取組や生徒が参加するボランティア活動において、地域の方の協力を得て活動の充実を図る。